

学校教育目標	「かしこく (Growth、知性、確かな学力)、やさしく (Global、感情、豊かな心)、たくましく (Grit、意志、健やかな体)」
目指す学校像	「学び」でゆるやかにつながる「みんなの学校」～だれもが笑顔で学び、つながり合える学校～
重点目標	1 教育DXを活用した「質の高い深い学び」の実現 2 生徒指導、教育相談、特別支援体制の充実による「誰一人取り残されない教育」の推進 3 学校運営協議会とSSNを核とした地域とともにある学校づくりの推進 4 安心・安全な教育環境の整備。 5 教職員のキャリアアップと働き方改革の推進により、働きやすさと働きがいと両立した職場づくり

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価			
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月13日			
		番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に関する取組	1		(現状) ○令和7年度さいたま市学習状況調査によると、各教科においてどの学年も市の平均値に達していない。 ○令和7年度学校評価アンケート(児童)において、タブレットの活用に関する項目で、肯定的・やや肯定的な回答が94.2%であった。 (課題) ○学習に対して「やってよかった」、「もっとやりたい」と感じる児童が少ないことから、児童主体の学習活動の機会を十分確保していく必要がある。 ○個別最適な学習を推進するために、AIドリルや書き込み式のドリルを活用していく必要がある。	・教育DXの活用による学力の向上 ・ICTの積極的な活用	①学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を軸にした授業展開を行う。 ②教育委員会から指導者を招聘し、学校課題研修の方向性や手立てについて指導、助言をいただく。 ③年間を通して、1人2回の授業公開を行い、管理職から指導・助言を行う。	・学校評価アンケートの「学習について」における項目で否定的・やや否定的な意見を昨年度より減少できたか。 児童 (R7:15.2%→R8:12%) 保護者 (R7:15.6%→R8:12%) ・学びの指標アンケートにおける「主体的な学び」についての項目で1回目よりも2回目の数値を向上させることができたか。 ・学校評価アンケートの「タブレットの活用」における項目で肯定的な回答を昨年度より増加できたか。 児童 (R7:64.5%→R8:65%) 保護者 (R7:33.2%→R8:35%)			
				(現状) ○令和7年度学校評価アンケート(児童)における学校生活の充実に関する項目で、肯定的およびやや肯定的な回答が90%以上であったが、登校をしづる児童も一定数いる。 ○令和8年度「心と生活のアンケート」第1回による要面談者は、22.5%であった。 (課題) ○オアシスルーム(Sola る一む)におけるボランティア等も含めた支援体制、および環境整備を進める必要がある。 ○全教職員がプロアクティブな生徒指導や組織的な対応、丁寧な初期対応等、粘り強い継続指導を行う必要がある。	・児童一人ひとりの実態の把握と生徒指導、教育相談、特別支援体制の充実	①目白大学と連携し、リハ専門職によるサポート及び教育相談を実施する。 ②特別支援教育ネットワーク連携協議会やさいたま市教育委員会から指導者を招聘し、指導・助言をいただく。 ③スクールロイヤーによるいじめ防止特別授業を実施する。また、保護者にも公開する。 ④「夢プロジェクト」を実施し、児童から挙げられたアイデアを実現する。	・学校評価アンケートの「相互理解について」における項目で肯定的な意見を昨年度より増加できたか。 児童 (R7:57%→R8:60%) 保護者 (R7:47.8%→R8:50%) ・学校評価アンケート(保護者)および(児童)の「主体者意識について」における項目で肯定的な意見を昨年度より増加できたか。 児童 (R7:65%→R8:70%) 保護者 (R7:20.4%→R8:25%)		
子どもの発達や心身のサポートに関する取組	2		(現状) ○児童と地域の方が気軽に交流できることを目的とした「コミュニティルーム」が定着しはじめている。 ○地域の児童センターなど学校と地域の施設との関わりが深く協力的である。 (課題) ○地域との関わりはあるものの固定化している。 ○学校ホームページ等を活用し、学校の状況を定期的に情報発信する必要がある。 ○一・小・一中の地の利を生かして、小・中の学びの連続性を強化していく必要がある。	・コミュニティルームの活用と地域との連携	①コミュニティルームや学習支援ボランティア『ちょこボラ』、西原 cafe について地域関係者に周知する。 ②学校の状況を定期的にホームページに更新し、情報発信する。 ③小・中の児童生徒同士における授業交流を行う。 ④学校運営協議会を主催とした西原フェスティバルを開催する。	・学校評価アンケートの「郷土愛」における項目で肯定的な意見を昨年度より増加できたか。 児童 (R7:25.7%→R8:30%) 保護者 (R7:72.9%→R8:75%) ・学校運営協議会委員へのアンケートにおける該当項目において肯定的・やや肯定的な回答の割合が85%とすることができたか。 ・学校の状況を学校ホームページで情報発信することができたか。			
				(現状) ○施設の老朽化等により、修繕が必要な箇所がある。 ○備品の中に不要なものや破損等しており使用できないものがある。 (課題) ○計画的に施設や備品の修繕、不要備品の廃棄や入れ替えを進める必要がある。 ○空き教室を有効活用するための手立てや整備を行う必要がある。	・安心・安全な教育環境の整備	①安全点検(毎月)および校内巡視(毎日)の確実な実施を行う。 ②教材教具、備品の管理補充等を適切に行うためのミニ審査会を実施し、予算の確実な執行を行う。	・学校評価アンケートにおける「教育環境の整備」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を95%以上とすることができたか。(R7:92.5%→R8:95%) ・学校配当予算における「備品費・消耗品費」の執行率95%以上とすることができたか。		
地域とともにある学校づくりに関する取組	3		(現状) ○児童はチームワークよく協力して業務にあたっている。 ○教職員の年齢構成は二極化しており、ミドルリーダーが少ない。 (課題) ○それぞれの教職員のキャリア段階や担当校務分掌など個に応じた研修の奨励を行う必要がある。 ○誰もが学び続けることができる職場環境づくりが必要である。	・教職員一人ひとりが主体的・協働的に研修や教育活動に取り組む学校づくり	①当初面談による中長期的な目標や希望する研修・役割の確認を行う。 ②キャリア段階に応じた役割や活躍の機会を用意し、定期的に振り返りと管理職との対話を行い、達成状況の確認を行う。 ③職場の心理的安全性を確保するため、ストレスチェックや勤務に関する意識調査等の結果を分析し、全教職員で共有する。 ④教職員一人ひとりのウェルビーイングの向上に向けて「働き方向上会議」を行い、会議で挙げられた意見をもとに教職員が働きやすい環境を整備する。	・学校評価アンケート(教職員)における「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を95%以上とすることができたか。(R7:100%→R8:95%以上) ・教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてB評価以上を達成することができたか。 ・月の平均時間外在等時間を3.5時間以内にすることができたか。(R7:35時間)			
教育環境の整備に関する取組	4								
教職員のキャリア形成に関する取組	5								

学校運営協議会からの意見・要望・評価等